

戦略プロジェクト評価シート (H29 事中評価)

戦略プロジェクト名	「食と農」・「ものづくり」応援プロジェクト		
主管部等名	商工観光部, 農林部	部コード	13, 14
戦略プロジェクト 統括マネージャー	商工観光部長 沼田 秀彦 農林部長 長澤 秀則	内線番号	3700 6030

Step 1 戦略プロジェクトの全体像

1 戦略プロジェクトの概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

戦略プロジェクト への設定理由	<p>人口を維持していくためには、若者がどれだけ盛岡に残り、定住してもらえるのかという課題があり、この課題解決のためには、「やりがいのある仕事」、「安定した雇用形態」、「相応の賃金」といった雇用の質を重視した取組が重要であり、経済・産業全体の付加価値や生産性の継続的な向上につなげていくことが必要である。</p> <p>当市においても、人口減少社会の進展により、農畜産物や工業製品等のマーケット縮小や新規就農者をはじめとする農業の担い手の不足が懸念される中、食と農に関わる事業者やものづくり産業に属する事業者が事業活動の展開を図り、雇用を維持・創出することが重要課題となっている。</p> <p>そのために、一定の評価を得ている魅力のある盛岡産農畜産物の高付加価値化を図るとともに、食品加工産業やものづくり産業への支援、企業の誘致や異業種交流の促進などにより、第1次産業や第2次産業の成長を後押しし、活力のあるまちを実現する。</p>
戦略プロジェクト の取組内容	<p>本市の魅力ある農畜産物などの地域資源を活用した取組を進めるとともに、関連する食品関連産業やものづくり関連産業の高付加価値化や操業環境整備の取組により産業の振興を図る。</p> <p>また、戦略的な企業誘致や企業支援のほか、新たな市場開拓や新商品開発等を目的とした異業種交流の推進により、活力あふれるまちづくりを推進する。</p>
重点取組期間	平成29年度 ～ 平成31年度
期待する効果	産業の魅力・活力があふれるまちになる
対 象 (誰(何)を対象として行うのか)	<ul style="list-style-type: none"> 農畜産物 製造業
意 図 (対象をどのようにしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> 農畜産物の6次産業化により販売額が一定水準に達する。 製造業の高付加価値化を図る。
目 標 指 標	<p>農畜産物加工品販売額 27百万円 (平成31年度末)</p> <p>製造業粗付加価値額 4,377千万円 (平成31年度末)</p> <p>異業種交流における商談成立件数 110件 (平成31年度末)</p>

Step 2 目標指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標)

指標項目	単位	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績 (評価 時点)	30年度 実績	31年度 目標
A 農畜産物加工品販売額 (↑)	百万円	18	22	—		27
B 製造業粗付加価値額* ¹ (↑)	百万円	4,209	—	—		4,377
C 異業種交流における商談成立 件数* ² (↑)	件	27	43	58		110

*¹売上高から原材料費や仕入原価などの変動費を差し引いたもの。

*²異業種交流における商談成立件数の目標値は、平成27年度からの累計である。

Step 3 戦略プロジェクトの進捗状況

「食と農」応援プロジェクトは、盛岡産農畜産物の魅力を高め、高付加価値化を進めることで農業と関連する食品加工産業等の振興を図ることを目的としており、当該プロジェクトに位置付けている事業にそれぞれ取り組んでいるところである。平成29年度は、新たに食と農のバリューアップ推進事業、もりおか短角牛肥育経営安定化対策事業、地域おこし協力隊活用事業等を加え推進することとしている。

これらの取組の成果指標として、農畜産物加工品販売額を設定しており、目標値達成に向けて、それぞれの事業を着実に実施する。

商談成立件数については、平成28年度の実績において平成27年度の実績を下回ったが、平成29年度以降のマチナカ商談会（異業種交流商談会）においては、金融機関等との連携により、1回あたりの参加者数、商談成立件数ともに実績が向上している。また、今後は農政部門において進めている事業との連携により成立件数をさらに向上させることで目標達成を目指す。

また、平成29年度から、飲食店や小売店等で盛岡産の農産物等の活用を促す「盛岡市「食と農」「ものづくり」の魅力ある店舗促進事業補助金」を創設し、申請を受け付けている。

なお、若者を含めた人口流出解決のためには、新たな企業の進出や既存企業の拡充などによる新たな雇用の創出が必要であるが、当市において産業等用地の不足が喫緊の課題であることから、「ものづくり」応援プロジェクトとして、平成28年度に策定した新産業等用地整備基本計画に基づき新たな産業等用地整備に取り組んでいる。

Step 4 市民ニーズの把握

平成28年度盛岡市まちづくり評価アンケートの結果によると、「地域特性を生かした、地産地消の取組」について、「とても重要である」または「やや重要である」と答えた人の割合は67.2%となっているものの、満足度では、62.3%が「不満」または「どちらともいえない」と答えており、重要度が高い取組であるものの、満足が得られていない状況になっていると考えられる。

また、平成29年6月に実施した、商業振興ビジョン策定に係る事業者アンケートによれば、他事業者とのマッチングの機会や情報提供を求める声がある。

Step 5 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

平成29年度からの新規プロジェクトのため、該当しない。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況

3 2で挙げた取組状況がCの場合, その原因

Step 6 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトの中で特に成果をあげた点

「食と農」

- ・ 食と農の連携推進事業(盛岡の食材プロモーション事業)により, 商談会などを通じたビジネス・マッチングが行われ, 地域の農畜産物を使用したメニューを提供する飲食店等が増えている。
- ・ 異業種交流の商談会をきっかけにし, 新たな商品開発に結びつく事例がでるなどの成果を上げている。

「ものづくり」

- ・ クリエイティブプロジェクト育成事業によりクリエイターのネットワーク形成及びクリエイティブ産業の認知度の向上が図られた。

(2) 成果をあげた要因

「食と農」

- ・ 食と農の連携推進事業(盛岡の食材プロモーション事業)では, 生産者と事業者との交流を促進するための商談会「もりおかマチナカ商談会&もりおか広域地域の交流食deマルシェ」を盛岡広域振興局と共催で開催し, 地域食材の積極的な活用を促したことによる。
- ・ 広域振興局や農政部門との連携を図り, それぞれで実施していた商談会・交流企画を, 一元化することにより, 効果的な情報の提供や企画を実施することができた。

「ものづくり」

- ・ クリエイティブプロジェクト育成事業をきっかけとして、クリエイティブ事業者の連携意識の醸成につながった。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

「食と農」

- ・ 「盛岡の美味もんアンバサダー」認定制度等の取組を行うことにより、地産地消の推進と地域食材の活用を通じた都市ブランド力の向上を図る必要がある。
- ・ 広域振興局や農政部門との連携を更に強化していく必要がある。

「ものづくり」

- ・ クリエイティブ産業事業者は小規模事業者が多く、ネットワーク形成に継続的な支援が必要である。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 戦略プロジェクトにおける現状の問題点（特に改善を急ぐべき点）

「食と農」

- ・ 地産地消推進のための食材供給体制の強化。
- ・ もりおか短角牛新規肥育農家の掘り起こしが容易ではないこと。
- ・ 農政部門と商工部門で実施している事業に関して十分に情報共有がされていない部分がある。

「ものづくり」

- ・ 新産業等用地整備事業において、全体の収支計画が確定していない。
- ・ 工場等新設拡充等事業において、補助金の申請状況が固定化している。
- ・ ものづくり産業魅力向上事業において、手づくり村の拠点性を高める上で、広域8市町の工芸品事業者のネットワーク化を（公財）盛岡地域地場産業振興センターを中心として取り組む必要がある。

(2) 現状の問題点が生じている原因

「食と農」

- ・ 農業就労人口の減少
- ・ 牛肥育農家の高齢化，零細化
- ・ それぞれが実施する事業に関して情報共有を図る機会がない。

「ものづくり」

- ・ 新産業等用地整備事業について、各部の今後の計画があるほか、国の交付金が減額傾向にあり、産業等用地整備を優先することが難しい。
- ・ 工場等新設拡充奨励事業補助について、大規模な設備投資が出来る市内企業には周知できているが、設備投資の可能性がある企業の現状の把握が限定的である。
- ・ ものづくり産業魅力向上事業について、工芸品事業者は個人経営者や零細事業者が多い。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

「食と農」

- ・ 農業所得の向上，安定化
- ・ 肥育農家の経営安定
- ・ 定期的な情報共有の場の確保。

「ものづくり」

- ・ 新産業等用地整備事業については、全庁的に同じ目標を持って産業等用地整備事業に取り組む。
- ・ 工場新設拡充等事業については、企業訪問の取り組み強化による現状の把握の推進。
- ・ ものづくり産業魅力向上事業については、広域の工芸品事業者の横の連携も活用して現状の把握を推進。

Step 7 Step 5, 6を踏まえた改革改善案

「食と農」

- ・ 地域資源を活用して農畜産物の魅力を高める。
- ・ もりおか短角牛の需用拡大とブランド浸透のためのPRを強化する。

「ものづくり」

- ・ 新産業等用地整備事業については、関係各部との協議を進め、早期に全体の収支計画を策定する。
- ・ 工場新設拡充等事業については、企業訪問を継続し、企業の設備投資計画等を把握しながら本制度の周知に努める。
- ・ ものづくり産業魅力向上事業については、手づくり村の拠点性を高めるため、(公財)盛岡地域地場産業振興センターと連携しながら、広域の工芸品事業者のネットワーク化を図っていく。
- ・ クリエイティブプロジェクト事業については、事業継続により、より多くの地域クリエイターのネットワークの形成・活性化を図っていく。